

古典の
日制定記念

人形芝居公演



沼須人形芝居保存会あけぼの座（沼田市）
小松姫物語
～小松姫留守の城を守る・正覚寺の饗応～
（約30分）

津久田人形操作伝承委員会（渋川市）
鎌倉三代記
七段目 三浦別れの段（約60分）

令和7年

1月19日 日

13:00 開演（12:30 開場）

利根沼田文化会館 大ホール
沼田市上原町 1801-2

料金 入場無料 定員 先着 400 名（予約優先）

申込・問合せ 群馬県教育文化事業団

申込方法 電話または WEB フォーム

TEL 027-224-3960

（8:30～17:00 日曜・月曜・祝日・年末年始を除く）

受付期間 令和7年1月17日（金）まで



◆人形芝居講座「群馬の人形芝居」 約30分◆
講師／金井竹徳（沼須人形芝居保存会あけぼの座長）

◆人形芝居ワークショップ 約30分◆
人形の仕組み・操作／沼須人形芝居保存会あけぼの座



古典の日制定記念 人形芝居公演

人形芝居とは、「三味線」の師匠がさばく音に合わせて、「太夫」が義太夫節を語り、その語りに合わせて「人形遣い」が人形を操り演技する芝居で、三位一体などと呼ばれている。人形遣いは人形の人物になりきり、様々な想いや感情を人形にそそぎ演じる。一体の人形を一人、あるいは二、三人で操る人形芝居があり、人形遣いは黒子（黒色の頭巾と着物）を付けて操作する。県内で現在演じられている人形芝居は五座ある。

つくだにんぎょうしばいさくらざ 津久田人形芝居櫻座（渋川市）

江戸時代から伝わる三人遣いの人形芝居で、一体の人形を三人で操る。享保8（1723）年の古文書によると、津久田桜森八幡宮の氏子が「櫻座」を組織し、寛保2（1742）年頃に一人遣いから三人遣いになったようである。途中何度か中断されていたが、平成25年に津久田人形操作伝承委員会として活動を再開。津久田人形舞台と頭38体は、昭和58年に群馬県重要有形民俗文化財に指定。令和5年津久田人形芝居櫻座生誕300年祭を開催、第12回ぐんま街・人・建築大賞受賞。



鎌倉三代記 七段目 三浦別れの段

源頼朝亡き後、幕府の実権を握ろうとした北条時政は、佐々木高綱、和田義盛、三浦之助らの御家人を圧倒していた。この戦いの最中に、佐々木高綱に顔形がそっくりな百姓藤三郎が現れたことから、高綱はこの藤三郎になりすまして時政に接近しようとする。また、時政の娘時姫が味方の三浦之助に恋し、時政の家を出て三浦之助の母の家に来ているのを知り、時姫を説得して時政を殺害しようとする。高綱によるこの二つの計画がひそかに進められた。七段目は、三浦之助が時姫に父親殺害の計画を持ちかけ、「父を討つか、夫と別れるか」と迫られた時姫が孝と恋の板挟みの中で、父親殺害を決意する場面である。この時代に生きる女性の悲しさがよく描かれている。

ぬますにんぎょうしばい 沼須人形芝居あけぼの座（沼田市）

一人で遣う人形芝居である。江戸時代の末期、安政年間（1854-1859）に阿波の国（徳島県）の旅芸人から買い取り始めたのが始まりといわれている。中断したこともあったが、昭和50年に保存会が結成され復活。昭和51年沼田市指定重要有形民俗文化財、平成7年沼田市指定重要無形民俗文化財、令和5年日本ユネスコ協会連盟「プロジェクト未来遺産」に県内初登録。



小松姫物語

初代沼田城主の真田信之の妻となった小松姫の勇姿を描いた物語。関ヶ原の戦いで東軍と西軍に分かれた真田家。敵方となった父昌幸が、最後に小松姫や孫たちに会いたいと、城主信之の留守に訪ねてくる。ですが、小松姫は「たとえ父君でも今は敵でござります。お引き取りくださらねば、鉄砲弓矢を打ちかけますぞ」と、門前でやりを手に入城を拒む。小松姫の凛とした気丈さと人を思いやるやさしさが見どころである。

「古典の日」

国民が広く古典の意義を再認識し、古典に親しむ機会を増やそうと平成24年に古典の日（11月1日）が制定された。群馬県教育文化事業団では、地域の伝統芸能を通して古典に親しみ、伝統文化への意識高揚を図るため、県内で活躍する人形芝居に特化した公演を平成26年から開催している。

利根沼田文化会館

群馬県沼田市上原町1801-2 TEL 0278-24-2935（ナビ用）

アクセス

自動車

・関越自動車道「沼田I.C.」から約5分

電車

・JR上越線「沼田駅」からタクシー約8分
・JR上越線「沼田駅」から鎌田方面行きバス「沼田三軒屋」下車徒歩3分

利根沼田文化会館 地図

